

災害時における住民避難行動に関する検討報告書 概要

○ 検討会の目的

平成30年7月豪雨等において、市町が発令した避難情報が住民の避難行動に結びつかなかったことから、平成30年11月に「災害時における住民避難行動に関する検討会」を設置(座長:矢守克也 京都大学防災研究所教授)、令和元年12月までに5回の検討会を開催して住民の避難行動向上方を検討し、報告書を取りまとめ

○ 報告書の概要

【特 長】

- ① 住民・地域・行政が連携して速やかな避難を図ることを明記
- ② 住民が、平時から「逃げるタイミング」「逃げる場所」を考え、災害時には主体的に避難することを明記
- ③ 県・市町が実施する「マイ避難カード作成支援モデル事業」でのワークショップに検討会委員が参画し、「マイ避難カード」の有用性を確認
- ④ 地域ぐるみでの避難など、県内外の避難行動に係る先進的事例を紹介

マイ避難カード (作成イメージ)

災害の種類: [] 名前: []

確認! 判断材料の入手

いつ? 逃げ時

どこに? 避難先
昼(明るい時) []
夜(暗い時) []

どのように? 避難する方法
昼(明るい時) []
夜(暗い時) []

(その他メモ)

【いのちを守る5つの提言・提言ごとの取り組むべき内容等】

提 言	取り組むべき内容	県の主な今後の施策
I 自分のいのちを自分で守るため、一人ひとりが「逃げるタイミング」(避難スイッチ)を地域とともに考えよう。	・住民は、平時から自らの「逃げるタイミング」を考えておく	・マイ避難カード作成支援 ・同カードを用いた避難訓練の促進 等
II 一人ひとりが自分に適した「逃げる場所」を地域とともに考えよう。	・住民は、平時から自らの「逃げる場所」を複数考えておく	
III 実効性のある避難行動要支援者(高齢者、障害者等)対策の取組を進めよう。	・行政は、福祉部門職員等の災害対応能力の向上を図り、関係者間の連携に努める。住民は、親戚宅等への早めの避難も検討 等	・福祉専門職を対象とする防災対応力向上研修の充実 等
IV 個人・地域・行政が連携した取組を進めよう。	・行政のほか、住民や自治会・消防団等が、それぞれの役割にとらわれることなく連携し、速やかな避難を図る	・地域でマイ避難カード作成を支援するリーダーの養成 等
V 行政は、住民や地域の主体的な取組を支援し、適時適切に情報を提供しよう。	・対象地域を明確にした適時適切な避難勧告等の発令 ・「マイ避難カード」作成を通じた住民避難意識の向上 ・「ひょうご防災ネット」アプリ等を活用したリアルタイムな情報伝達 等	・県版避難判断ガイドラインの改定 ・ひょうご防災ネットアプリの機能強化 等

【避難行動(安全確保行動)の大原則】

「自分のいのちは自分で守る」(わがこと意識の徹底)

【避難行動の留意点】

- ① 避難行動は、ハザードマップ等による「リスク認知」→ 避難行動をとる「判断」→ 「行動」の順に進む。
- ② 「水平避難」「垂直避難」のほか、安全な場所にとどまる「待避」が有効な場合がある。
- ③ 市町の避難勧告等の発令により必ず適切な避難行動をとる。

地域における独自の避難基準(中小河川の水位情報や山の様子の変化など、地域の具体的な避難開始の目安)の設定も重要

- ④ 指定緊急避難場所に加え、2次的、3次的に避難する近くの安全な場所の事前設定が重要

○ 避難行動の向上に向けた「マイ避難カード作成支援モデル事業」の実施

【モデル事業の概要】

自然災害時に、住民が主体的な避難行動ができるよう、住民一人ひとりが、自らの「逃げるタイミング」や「逃げる場所」などを予め決めておく「マイ避難カード」を作成する事業を、県内10市町で実施

※10市町...神戸市、芦屋市、三田市、明石市、太子町、佐用町、豊岡市、新温泉町、洲本市、南あわじ市

「マイ避難カード」とは、

災害の危険が迫っている時に、「いつ」「どこに」「どのように」避難をするかをあらかじめ自分で確認、点検し、書き記しておく、自宅内の普段から目につく場所に掲出するなどして、いざという時の避難行動に役立てるためのカード



有識者による「避難の必要性」の説明



「まち歩き」により危険箇所を確認



「マイ避難カード」を作成



「マイ避難カード」を用いた避難訓練

【検討会での意見】

■「マイ避難カード」について

- ・住民自らが、平時から、「逃げるタイミング」や「逃げる場所」等を考えておくことが重要で、これらを考えて「マイ避難カード」に記載する取組は有効
- ・「マイ避難カード」を作成するうえで、ワークショップの取組が有用
- ・今後「マイ避難カード」を県内市町へ展開していくことが望ましい。
- ・今後の普及にあたり、「マイ避難カード」作成のアドバイスやワークショップでのファシリテーター役など「マイ避難カード」の取組を支援する人材が必要

■逃げるタイミングの検討

- ・行政からの避難情報に加え、地域の状況を加味して「逃げるタイミング」を決めることにより、避難意識が高まることもある。
- ・災害が激甚化するなかで、これまでの経験則のみではなく、気象庁の防災気象情報や行政の避難情報などを避難の判断材料にすることが必要

■逃げる場所の検討

- ・避難する「ベストなタイミング」を逃した場合も想定し、「逃げる場所」は1つではなく、「セカンドベスト」「サードベスト」の避難先を記載しておくことも有効
- ・浸水害などで災害リスクが低い人は、自宅等に留まる「待避」や、2階以上に避難する「垂直避難」が有効な場合がある。必ずしも全員が避難する必要がないことを周知することが必要

【モデル事業の流れ】

STEP 1 マイ避難カード作成ワークショップ

- 集落・自治会・マンション等で開催
- 有識者等が、災害リスク、災害情報の取得方法や見方、とるべき行動等について説明
- まち歩きを行い、危険箇所、避難経路等を確認
- 逃げるタイミング、逃げる場所、避難方法を話し合い、マイ避難カードを作成

STEP 2 実践的な避難訓練

- 作成したマイ避難カードを活用した避難訓練を実施し、適時適切な避難が可能か検証

STEP 3 出水期の実践・検証

- 出水期において、マイ避難カードを活用した避難を実践・検証

【参考：モデル事業参加者のアンケート結果(6市町153名より回答)】

